

フロアからの意見

登壇者による発言につづいて、フロアからも意見が出されました。全体会にとって意味深いやりとりとなりましたので、要約になりますが、ここで再現してみます。

フロア：私は、先生でもなくて高校生でもなく浪人生なんですけれども…あの…ことし大学を受けました。落ちて今、ここにいるんですけれども…予備校の先生に、私の学力のどういうところが問題ですかと相談したんですけれども、「君には国語力がない」といわれたんです。自分でいうのも何なんですけど、高校時代は、国語が得意で、語彙力もあったし、本を読みなさいといわれてたんですけれども、本を読むのも好きで、めっちゃ読むんです。

でも、予備校では、国語力がないっていわれたんです。高校時代国語の先生に言われた、本を読みなさいとか、そういうのをやっても国語力がないって言われて…これって何の力がついてたんですかね？というのが、今、自分が浪人生として模索していることです。

高校の在学中に、(予備校の先生に言われた)国語力を伸ばしていかなければならないということなぜ、気づけなかったのか、ちょっと考えてほしいなって、今日、来たんですが…。

司会：その先生は、何を指して国語力っていってると受け取れますか？ あなたの国語力…どういうタイミングで、そういうやりとりがあったのですか。

フロア：数学の質問のときなんです。君には全然国語力がないって、問題を全然読むのがだめ…本当に君は現代文ができるのかって…。

司会：数学の問題を解くのに、問題文が理解できていないっていつきにいわれたわけですか？

フロア：はい。君は(国語力が)ないだろうと…。

司会：皆さん、何でしょう…これは。これは何でしょう。よく言いますよね。そういうのよく…。結局、数学だって国語力、論理的な思考力、そういうものは同じなのだ、みたいな感じなのではないでしょうか。

…でも、あなたはもしかしたら端的に数学ができないのではないのですか？

そのときに使われた「国語力」ということばは、数学の問題に含まれている数学の論理を、何か日本語として置き換えたものを受け取る力っていうふうな、そういう意味で言われたということでしょうか？

フロア：国語が得意って言っても、論理の力っていうのはどういうことか、全然どういうことか教わっていないなって、思うんです。現代文を解く、評論の解き方は全部知ってるはずなんですけど、セ

ンター型の試験で満点とったりすることもあるんですけど、でも、論理力がないっていわれるんです。それってどういうことなんですかねえ、っていうのがすごい気になるんです

司会：これは、きわめて本質的な問いのような気がします。

高校教員（フロア）：まず、国語という問題なんですけれども、母国語という意味において国語を使うのは日本と中国くらいです。国語や国語学力と言うときに、そのことばの歴史的経緯もあるわけです。

人はことばで日本語を使って感じたり感情を抑えたり、何かを伝えたり、論理的なインフォメーションをやったりするでしょう。国語ってそういうものなんですね。だから、そういうことを自覚しながら、（国語の授業を）やっていくっていうことが大事かと思います。

それからもう一つ、古典の作品って自己表現ではないんですね。文学の作品が自己表現になっていくのは近代以降なんです。もっと言うと自己表現されていない文章も作品となっているわけです。古典にはそんな部分もあるということをしていつも念頭に置く必要もある。国語っていうことばの定義と国語力という定義だけで一つの論文ができるくらいの（大きな）課題だと思います

司会：ありがとうございます。話さなければならないことが、また生まれてますよね。本当は今から、という感じがあるんですが、次の予定がございます。絶対に今、ここで何か言っておきたいということがございましたらお受けいたします…。よろしいでしょうか。後は分科会にてこの問いを持ち越していただいて、またご議論いただければと思います。では第一部全体会問題提起の部はこれで閉じさせていただきます。